

平成 30 年 5 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26760003

研究課題名(和文) 湾岸アラブ諸国の成立とイギリス帝国

研究課題名(英文) The British Empire and the Formation of the Gulf States

研究代表者

佐藤 尚平 (Sato, Shohei)

早稲田大学・文学大学院・准教授

研究者番号：70597939

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、湾岸アラブ諸国の現代史についての研究である。特に、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦(UAE)の三ヶ国の成立過程に着目し、1971年に三ヶ国が独立を達成するまでの政治や社会の変化を、アジア・アフリカの地域の近代化とイギリス帝国の盛衰という世界史的な動態から読み直すことを目的とした。マルチ・アーカイブ的な調査を行なった結果、三ヶ国の独立に向けた交渉過程では偶然的な要素が大きな意味を持ったことや、イギリスとの相互依存関係が最後まで機能していたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research project is about the end of the British Empire in the Middle East. Over the last half-century the Persian Gulf region has gone through oil shocks, wars and political changes but the basic entities of the southern Gulf states has largely remained in place. Historically, nine separate states had stood in parallel to each other under British influence. At various points, plans were discussed to amalgamate the nine into one, two, three or even four separate entities. The eventual emergence of the smaller but prosperous members such as Qatar, Bahrain and the United Arab Emirates was not evident at all until 1971. How did such a resilient system arise, given the seemingly contested societies? Drawing on original archival research, this project illuminated a series of negotiations between British diplomats and the Gulf rulers that inadvertently led these states to take their current shapes and address the crucial issue of self-determination versus 'better together'.

研究分野：中東地域研究

キーワード：中東現代史 ナショナリズム 脱植民地化 イギリス帝国 植民地独立 主権

1. 研究開始当初の背景

本研究は、湾岸アラブ諸国の現代史についての研究である。まず歴史的な背景を整理すると、ペルシャ湾南岸の湾岸アラブ諸国は、19世紀初頭よりイギリス帝国の傘下にあった。とりわけ、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦(UAE)の三ヶ国は、1971年に独立国家として国際社会の仲間入りを果たすものの、その際に宗主国イギリスから必ずしも望んで独立を達成したわけではないという点で多くのアジア・アフリカ地域と異なる。

逆説的な脱植民地化とも言えるこのような状況の背景には、この地域とイギリス帝国との複雑な関係がある。そして、この地域とイギリスとのこの複雑な関係について解明することが、ひいては、アジア・アフリカ地域全体の近代化について重要な視座を提供してくれるのではないかと研究開始当初に申請者は考えた。これが、研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究では、1971年までにバーレーン、カタール、アラブ首長国連邦(UAE)の三ヶ国が独立を達成するまでの政治や社会の変化を、アジア・アフリカ地域の近代化とイギリス帝国の盛衰という世界史的な動態から読み直すことを目的として設定した。

3. 研究の方法

本研究では、まず湾岸アラブ諸国を取り囲む重層的な外交関係を解明し、その上で湾岸アラブ諸国とイギリス帝国との交渉過程を検討した。そのために、各国でのマルチ・アーカイブ的な資料調査に軸足を置きつつ、さらに各地域でオーラル・ヒストリー調査も行った。

4. 研究成果

調査の結果、次の二点が明らかになった。第一に、湾岸アラブ諸国の独立は、事後に巨視的にみた場合には、あたかも歴史の必然のように感じられるかもしれないが、実際の交渉過程を丹念に追うと、偶然的な要素も大きな意味を持ったことが分かった。独立を達成することになるバーレーン、カタール、アラブ首長国連邦(UAE)の三ヶ国の指導者らも、逆にペルシャ湾からの撤退を決めたイギリスの指導者らも、どちらも初めから独立に向けた明確な青写真を抱いていたわけではなかった。三ヶ国の独立過程は、目的論的、単線的なものではなかったのである。

第二に、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦(UAE)の三ヶ国の独立の具体的なあり方を決めていく交渉過程を追っていくと、この三ヶ国の指導者層とイギリス帝国との深い相互依存関係がみえてきた。実は、この三ヶ国以外にも独立を望んだ国はあったが、イギリスと友好的な関係になかったため

に、国際社会からは門前払いを受けたのである。そしてその国は、独立の野望を諦めてやむなくアラブ首長国連邦に合流することを余儀なくされた。

独立というと、宗主国イギリスと競争的な関係に入るような印象を与えるが、実際には、そもそも宗主国と一定の協調関係がなければ、独立交渉のテーブルにつくことすらできなかったのである。旧宗主国と新生国家との間のこのような相互依存関係には、今一度光が当てられるべきであろう。

以上の調査結果をもとに、本研究では積極的に研究成果の発信を行った。特に単著単行本(Shohei Sato, *Britain and the Formation of the Gulf States: Embers of Empire*, 'Studies in Imperialism' series, Manchester: Manchester University Press, 2016)を出版したことが、本研究の大きな成果である。本書は、第6回地域研究コンソーシアム賞登竜賞を受賞した。さらに本書は、王立国際問題研究所から出版されている学術雑誌の書評で取り上げられ、「専門家以外にも一般市民や政策当局者に読まれるべき重要な本」と評された。他には、本研究のために調査を行っていた時の様子が、アラブ首長国連邦などの現地メディアに取り上げられた。

以上の通り、本研究では研究開始当初に目標としていたことは概ね達成することが出来た。一方で、今後の研究に向けていくつか重要な課題もみつかった。以下では、将来的な可能性について、三つの方向から整理する。

一つは、湾岸アラブ諸国の現代史について、よりミクロに掘り下げて分析する必要があるということである。本研究では、湾岸アラブ諸国の成立とイギリス帝国の関係に着目したが、湾岸アラブ諸国の社会自体の変化、特に遊牧民や海洋民の生活の変化というテーマについては、課題が残った。この点については、将来的に長期間のフィールドワークを行って取り組んでいきたい。

二つ目の可能性は、湾岸地域の現代史、特に国際関係史を、マクロな視点から捉え直すということである。近現代の湾岸地域を理解するためには、いくつもの複眼的なアプローチが必要となる。例えばアラブ諸国とイランでは、分析に使用する主要な言語が違う。さらにアラブ諸国の中でもサウジアラビアなどの域内大国とカタールなどの小国などでは一定の違いがある。また、イギリスやアメリカ、ソ連など重要な外部勢力も多い。このように複雑な湾岸地域の国際関係史を複眼的に捉え直すにあたっては、申請者一人の個人研究ではなく、何らかの形の共同研究という形で進めるのが有意義だろうと考えている。

三つ目の方向性は、イギリス帝国の解体、特に脱植民地化の過程について再検討を行うことである。すでに述べたように、宗主国イギリスと新生国家の間の相互依存関係に

については、今一度光を当てる必要があると申請者は実感している。そうした中、近年、このことを考える上で興味深い資料が、ロンドン郊外で発見された（FCO 141, Migrated Archives、FCO Special Collection、FCO non-standard files、イギリス帝国の遺産作戦関連文書群）。この資料を通じて、イギリス帝国の脱植民地化や歴史認識について今一度考え直すことが出来るのではないかと。申請者は現在このように感じており、研究を進めている。

以上の通り、本研究では当初の目標を概ね達成することが出来ただけでなく、その作業を通じて新たな研究の方向性についても模索することが出来た。支援をして下さった日本学術振興会と関係者の皆様方に、心から深く御礼を申し上げる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Shohei Sato, “ ‘ Operation Legacy ’ : Britain ’ s Destruction and Concealment of Colonial Records Worldwide ” , *Journal of Imperial and Commonwealth History*, vol. 45, no. 4, 2017, pp. 697-719. (査読有). DOI: 10.1080/03086534.2017.1294256

Shohei Sato, Book Review of S.B. Kelly (ed), *Fighting the Retreat from Arabia and the Gulf*, *Journal of Arabian Studies*, vol. 4, 2014, pp. 150-151. (査読無). DOI: 10.1080/21534764.2014.918381

[学会発表等](計9件)

Shohei Sato, “ The economic decolonization of oil producers: ‘ Kuwait gap ’ and the formation of the ‘ oil triangle ’ ” , paper presented for the workshop on ‘ The 1970s as the turning point of the modern world system: the impact of the oil crises ’ at National Chengchi University, Taipei, Taiwan, on 26 December 2017.

佐藤尚平「アラビア半島の国境線」、平成29年度三菱財団研究成果報告会、2016年9月20日、於三菱クラブ(東京都千代田区)(招待講演)

Shohei Sato, “ Rebellion and Retreat: The Late 1960s in the United Arab Emirates ” , Revisiting the Global Sixties Conference, held at New York University Abu Dhabi (NYUAD), Abu Dhabi, United Arab Emirates, on 20 September 2016.

Shohei Sato, “ Exploring a Revisionist History of Decolonization: FCO 141 and the ‘ Operation Legacy ’ ” , Britain and the World Conference 2016, held at Kings College London, London, United Kingdom, on 24 June 2016.

佐藤尚平「『イギリス帝国の遺産』作戦の研究」、北陸史学会大会、於金沢大学サテライトプラザ(石川県金沢市)、2015年11月29日。

Shohei Sato, ‘ The Migrated Archives and Britain ’ s ‘ Operation Legacy ’ in its Asian and African Colonies ’ , International Conference on Islam and Multiculturalism: Exploring Islamic Studies within a Symbiotic Framework, held at Asia-Europe Institute, University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia, on 13 December 2014.

佐藤尚平「脱植民地化の新地平：新出資料『帝国の遺産作戦』関連文書群の解題」、日本国際政治学会2014年度研究大会、於福岡国際会議場(福岡県福岡市)、2014年11月16日。

Shohei Sato, “ The ‘ Secret ’ Agreement of July 1971: Abu Dhabi, Dubai and Britain ” , World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES 2014), held at Middle East Technical University (METU), Ankara, Turkey, on 21 August 2014.

佐藤尚平「集合的記憶と水：アブダビの調査報告からの試論」、日本砂漠学会砂漠誌分科会等共催シンポジウム「中東における水資源管理の歴史・文化・社会」、於秋田大学(秋田県秋田市)、2015年2月21日。

[図書](計2件)

Shohei Sato, “ An Un-revolutionary globalization: the 1960s and the United Arab Emirates ” , in Chen Jian, Martin Klimke, Masha Kirasirova, Mary Nolan, Marilyn Young, Joanna Waley-Cohen, eds., *Routledge Handbook of the Global Sixties*, London and New York, NY: Routledge, 2018, pp. 469-479 (ISBN:9781138557321).

Shohei Sato, *Britain and the Formation of the Gulf States: Embers of Empire*, ‘ Studies in Imperialism ’ series, Manchester: Manchester University Press, 2016, 166 (ISBN:9780719099687).

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

忘れたはずの記憶：新出資料「イギリス帝国の遺産作戦」関連文書群（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターのウェブサイト、2015年1月7日）
<https://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/html/063.html>

6．研究組織

(1)研究代表者

佐藤尚平（Sato, Shohei）
早稲田大学・文学学院・准教授
研究者番号：70597939

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし